

## 退董 挨拶

本日は多くの皆様が私の退董式・並びに新住職の晋山式にご参列して頂き、ありがとうございます。この2年間を振り返るとウソの様です。あの頃、初めて大量血便した時は、家族にも出血を隠して2ヵ月様子を見ていました。2回目の大量血便が起こり、観念して大黒に告げました。その後、禁酒しサプリメントと食事療法を始めました。しかし3回目の大量出血を起こし、もうダメだと思った事・また今後の東陽寺をどうしたら良いか悩んだ事は今でも鮮明に思い出されます。

こうして今、ガンを克服して改めて考えてみると、東陽寺の守り神である仏様に導かれ、次男の慶一に東陽寺を引き渡せることが出来たと思います。出血のあった時、自分は死んでも住職をバトンタッチするぞと強い気持ち・気力で癌を乗り越えようと思いました。そこには人間の生きる力と自分でも分からない何らかの力に動かされて、もう少し生きろと仏様に後押しされ、あるがままに進んでいったと思います。当時は出血が続き、1時間毎にトイレ通いで、睡眠も1~2時間おきに起きていました。しかし、そんな中でも葬儀の時になると6時間ほど葬儀に時間がかかりますが、不思議にその時だけは出血が止まり、痛みも忘れ6時間何も問題ない状況で葬儀が出来たのです。人間の不思議な力を感じます。

今お話した人間の不思議な力の他に、もう1つ不思議な力・仏様の御導きを感じた事は、新住職の師匠との巡り合わせです。私の場合は、私の父が九段中学校の教師をしていた時の教え子であった新宿区・大龍寺の太田老師様に師匠を探して頂きました。そこで今回も新住職の師匠探しを太田老師様にすがり、お願いした次第です。太田老師様は、私の申し出を快く引き受けてくださり、長男様で現在大龍寺住職・賢孝方丈様を次男慶一の師匠に指名して下さいました。本当にありがたきご縁を頂きました。そして、師匠賢孝方丈様のもと、慶一はこの2年間みっちり指導を受けて来ました。この2年間の慶一の成長ぶりは目を見張るもので、私もこれで安心して引退できると確信しました。

ここで退董にあたり、お檀家様並びに本日参列の寺責任役員の皆様、私を支えて下さったお坊様方々に深く感謝とお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。最後に、若い新住職と東陽寺をこれからも宜しくお願いし、挨拶に変えさせていただきます。